

(3) 麻酔科

朝原 章二

麻酔科は患者の危機管理の専門家と言われているが、成育医療センターにおける危機管理上の最重要業務は、病院開設直前の2月13日、14日の2日間にわたり旧国立小児病院麻酔科スタッフ全員で実施した、手術集中治療部のみならず病院全体の酸素、空気、笑気、吸引のアウトレット約300ヶ所に及ぶ医療ガスの定量と定性検査であった。この検査により始めて成育医療センター開設と同時に入院予定となるこの種の医療ガスを必須とする旧国立小児病院 ICU 患者の安全性が確保されたのである。

成育医療センターの手術部は通常の手術室8室に加えて、全ての鎮静を必要とする検査を麻酔科管理とするためにMRI、CT、心カテ検査室の3室も手術部内に併設されている。その運用は効率的な手術計画が組めるように、旧来のような固定された手術枠を決めず、患者を中心に自由に手術計画を設定可能とした点が大きな特徴である。この様に全く新しい概念でスタートした成育医療センターの最初の全身麻酔症例は3月6日に行われた1歳男児の中心静脈カテーテル抜去であり、また我々の新しい任務である無痛分娩を希望する産婦に全面的に麻酔科が対応するという最初の硬膜外無痛分娩症例は3月3日に開始した。

この13ヶ月間の麻酔科管理件数(全身麻酔、局所麻酔、検査等を含む)は3224件であった。特に7月、8月の夏休み期間中の症例数は多く平均で月約350件であり、夏休みを除く月平均は約280件となった。従って今年度の麻酔科管理件数は約3500件になると予想される。科別の統計では最も多いのは小児外科で610例、ついで耳鼻咽喉科439例、産科365例、眼科267例、形成外科198例、循環器科156例、脳神経外科154例、泌尿器科148例、婦人科106例、整形外科98例、不妊診療科53例、歯科32例、皮膚科27例、胎児診療科16例、その他小児科検査等が418例で、このうち外来麻酔は全体の約6%の197例であり、年齢別統計では約半数の症例は5歳未満であった。また無痛分娩の依頼は124件あり、これは分娩全体の11%であった。

従来のように各科の手術枠を決めず、より効率的な運用を指向した手術部は関連各科の協力により、初年度より当初の事業計画を上回る年間麻酔科管理件数3224件を達成できた。